

## 東部支部活動報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 篠ヶ瀬, 卓二 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00025219">https://doi.org/10.14945/00025219</a>

## 東部支部活動報告

篠ヶ瀬 卓二\*

### 1. はじめに

平成7年12月2日(土)に「地震講演会」を、12月3日(日)に「富士川断層の巡検会」を、静岡県地学会東部支部、静岡県高等学校理科教育研究会東部支部、「富士の自然を愛する会」の共催により開催した。また、平成8年3月10日(日)には、「こどもの国」建設地内の溶岩樹型の巡検会を開催したので、その概要を報告する。

### 2. 富士川断層の地震講演会と巡検会について

#### (1) 富士川断層の地震講演会

静岡地学第72号(1995)で、すでに報告されている東京大学地震研究所恒石幸正氏の「『富士川断層』を用いた『東海大地震の予知』」をテーマに講演会を依頼した。県下から約50名程の方々が集まり講演を聞くことができた。

#### (2) 富士川断層の巡検会について

「『富士川断層』を用いた『東海大地震の予知』」の講演をうけて、東京大学地震研究所恒石幸正氏に案内をお願いして、「『富士川断層』に沿って歩いてみよう。」をテーマに巡検会を行った。

富士宮東高校の会議室で、高橋豊副会長および会場校の長島康雄教諭よりあいさつをいただき、観測室で恒石先生から光波観測の実情について説明を受けた。

その後、車で移動し富士川の西側の蒲原地震山を観察した。また、先生の説明によると、新幹線の鉄橋の東から25番目と26番目との間に断層があり、東側では、新富士火山の基底溶岩が地下150mのところに来ていと説明された。



写真1. 観測室での説明

JR東海道線の東から4本目の橋脚付近を断層が通り、雁堤の御所神社付近で左横ずれを確認できるとした。先生の言によると、岩松小学校は、大正9・10年頃に工事をしているが、岩松地震山ではないかとしている。

さらに、足を延ばし、星山丘陵の富士市岩本山団地の断層と富士宮市の若宮神社付近では左横ずれ断層の説明をうけ、富士宮市日影林では、富士川断層が地溝帯状の地形をつくっていることにもふれられた。

\* 富士市立須津小学校

富士宮市村山で反射プリズムの見学（富士宮東高から約5 Km の位置にある）もした。北栗倉入口では、西側が高くなっている溶岩の壁を観察したが、富士川断層の延長の可能性があったことがわかった。

前日の講演会とあわせて、大変楽しい巡検会になった。

### 3. 「こどもの国」建設地内の溶岩樹型の観察会

3月10日(日)、雪の降った次の日に巡検会を開催した。あたり一面は銀世界であったが、溶岩樹型のところには、ベニヤ板のおおいが置いてあったので、観察することができた。

これまでに、勢子辻溶岩流（津屋弘達博士の新富士火山中期溶岩流）分布域に、井戸型樹型と横臥樹型、溶岩洞穴、珪酸華などが発見されている。そのうち、井戸型樹型と横臥樹型、溶岩洞穴を見学した。

井戸型樹型は、長径60 cm、短径52 cm、深さ2.50 cm のBと長径・短径ともに44 cm、深さ3 m のCで、針葉樹の木肌がはっきり残っていることと、新富士火山中期溶岩流ものとして大変めずらしいものである。横臥樹型3本のうち2本は、溶岩流の表層から2 m 下がったところにあり、その1本は長径・短径ともに20 cm、長さ約6 m でほぼ水平に横たわっていた。他は短い。

見学した溶岩洞穴Aは、長径5 m、短径3 m のもの。

巡検会のあとで、全長約35 m、高さ約4 m の溶岩洞穴が発見された。詳細は、後日報告させていただくことにする。

午前中で散会した。

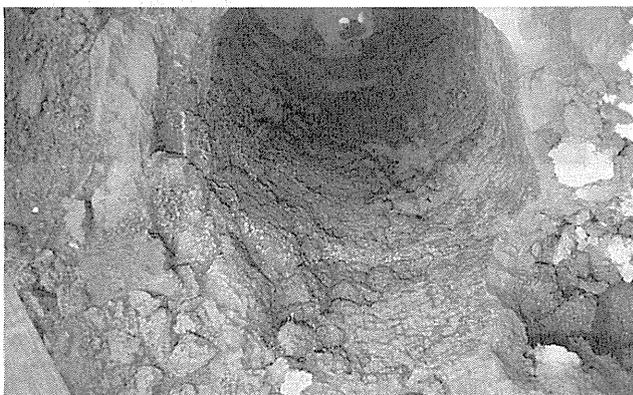


写真2. 長径60cm、短径52cmの溶岩樹型

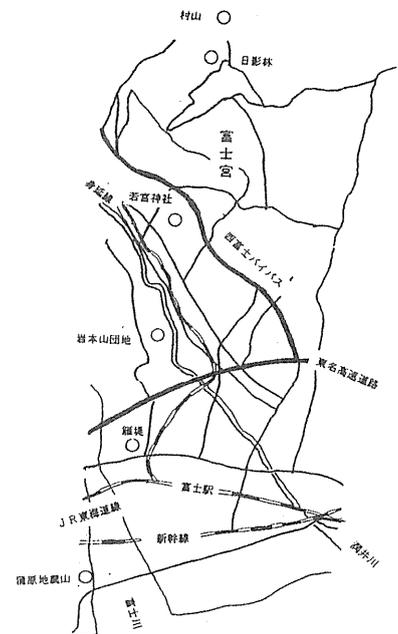


図1. 巡検会のルート

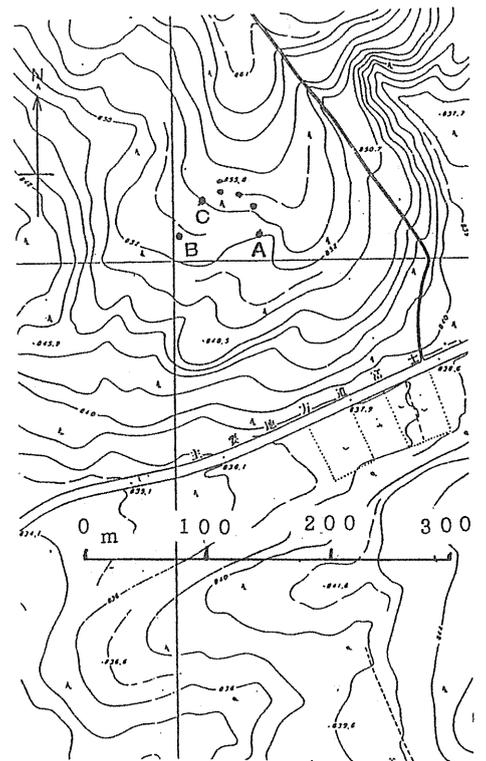


図2. 「こどもの国」建設地内の  
見学場所